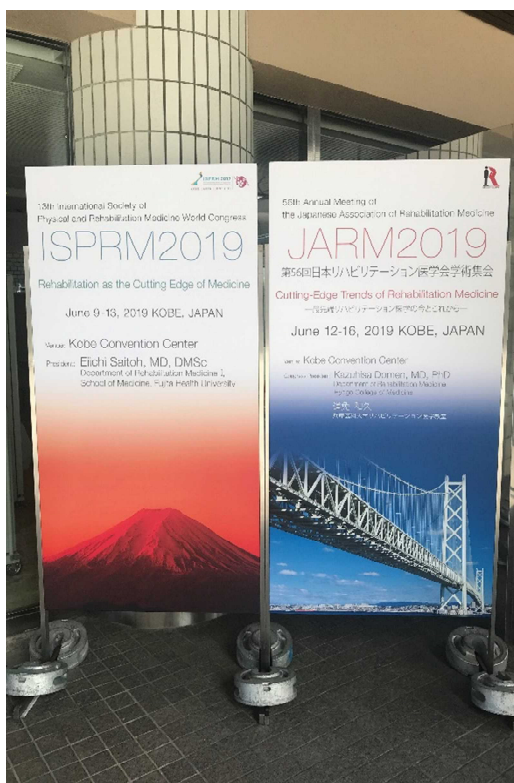


第56回日本リハビリテーション医学会合同シンポジウム1 報告

2019年6月9日（日）から6月13日（木）に、第13回国際リハビリテーション医学会世界会議（ISPRM2019）が、2019年6月12日（水）から16日（日）に、第56回日本リハビリテーション医学会学術集会（JARM2019）が神戸国際会議場を中心に開催された。JARMとISPRMが同時開催されている2019年6月12日にJARMのプレ開会式に引き続き、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）と日本リハビリテーション医学会による合同シンポジウム1「大規模災害に備えるーリハビリテーション医療職が期待されることー」が、神戸国際会議場1Fメインホールで10:00から12:30に開催された。シンポジストは5名で、最初に「災害時のリハビリテーション支援における国際動向」と題して、慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室の里宇明元先生が、ISPRMや関連する国際団体の動向を含めて講演された。次に「大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会 JRAT 概要」と題して、長崎リハビリテーション病院理事長 栗原正紀先生が JRAT 設立経緯から今後の課題まで幅広く概要の講演をされた。3番目に「災害時の医療支援の中でリハビリテーション医療職に期待されること」と題して、大阪医科大学総合医学講座リハビリテーション医学教室准教授 富岡正雄先生が、期待されることとして、医療チームとして質の高い支援活動とリハビリテーション医療支援に関する窓口の一本化を含めて講演された。4番目に「本邦における災害リハビリテーションの実際」と題して、東京湾岸リハビリテーション病院院長 近藤国嗣先生が平成27年関東・東北豪雨から平成28年熊本地震、平成28年台風10号、平成29年九州北部豪雨、平成30年7月豪雨、大阪府北部地震、北海道胆振東部地震までのJRAT活動について講演された。最後に「大規模災害に備えるーリハビリテーション専門職への期待ー」と題して、一般社団法人日本作業療法士協会会長 中村春基先生が JRAT 東京本部からの視点で講演された。

プレ開会式の直後の10時から開催された合同シンポジウムであり、学会参加者が少ない中であつたが、60名を超えるシンポジウム参加者があり、日本リハビリテーション医学会会員のなかで災害リハビリテーションに関する意識の高さがうかがえた。



右：座長と第4演者の近藤国嗣先生
左：座長と第3演者の富岡正雄先生



右：第1演者の里宇明元先生
中央：第2演者の栗原正紀先生
左：第5演者の中村春基先生